

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●2024年度ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

国際競馬統括機関連盟から『2024年度ロンジンワールドベストレースホースランキング』(単位はポンド)が発表され、英インターナショナルSなどを勝ったシティオブトロイとドバイワールドカップを制したローレルリバーがワールドチャンピオン(128)に輝きました。日本調教馬はドウデュースの第5位タイ(125)を筆頭に、ドゥレツァとシンエンペラーが第11位タイ(123)、ローシャムパークが第16位タイ(122)など、過去最多となった2023年と同数の56頭が掲載。イギリス(49頭)やアメリカ(43頭)などを上回り、史上初めて国別の掲載頭数で第1位となりました。

●2024年度JPNサラブレッドランキング発表

JRAハンデキャッパーとNARレーティング担当者の協議により決定した『2024年度JPNサラブレッドランキング』(単位はポンド)が発表されました。各部門・牡牝のトップは、2歳がクロワデュノール(117)とアルマヴェローチェ(113)、3歳芝はシンエンペラー(123)とレガレイラ(118)、3歳ダートがフォーエバーヤング(121)とアンモシエラ(110)、4歳以上芝はドウデュース(125)とリパティア일랜드(117)、4歳以上ダートがウシュパテソール(119)とオーサムリザルト(111)となっています。

●2024年世界のトップ100GⅠ競走発表

国際競馬統括機関連盟から年間レースレーティングをもとにした2024年度の『世界のトップ100GⅠ競走』が発表され、英インターナショナルS(124.25)が第1位となりました。日本の競走ではジャパンカップの第5位(122.50)を筆頭に13競走がランクイン。これはオーストラリア(30競走)、イギリス(20競走)に次ぐ世界第3位となります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●メルキオルがブルーバードC(船橋)で重賞初制覇

ブルーバードC(JpnⅢ、3歳、1月22日、船橋、1800m)は、2番手から3コーナー手前で先頭に立った2番人気のメルキオル(川田将雅騎手、牡、父ナダル)が、単勝1.7倍で断然人気のクアンタムウェーブに2馬身差を付けて完勝。逃げた3番人気のミストレスは、ウィルオレオール(北海道)にも交わされて4着でした。

●全日本新人王争覇戦(高知)はJRAの高杉吏麒騎手が完全優勝

1月21日に高知で2レースのポイント制で争われた全日本新人王争覇戦は、第1戦、第2戦を連勝した高杉吏麒騎手(栗東)が総合優勝を果たしました。吉村誠之助騎手(栗東)は6、2着で第3位、河原田菜々騎手(栗東)は9、8着で第8位、小林美駒騎手(美浦)は10、12着で第12位でした。

●ニューイヤーズCは牝馬ホーリーグレイル【各地の主要3歳重賞】

ニューイヤーズC(1月8日、浦和、1500m)は、3番手から直線に入って間もなく抜け出した2番人気の北海道から川崎への移籍馬ホーリーグレイル(牝、父ナダル)が重賞初制覇を果たしています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●GⅠセンテナリースプリントC〜カーインライジングが楽勝

現地1月19日に香港のシャティン競馬場で行われたGⅠセンテナリースプリントC(3歳上、芝1200m)は、Z. パートン騎手とのコンビで単勝1.15倍の圧倒的な1番人気に支持されたカーインライジング(騾4歳、父シャムエクスプレス、D. ヘイズ厩舎)が逃げ切り勝ち。最後は流す余裕を見せながら、前走のGⅠ香港スプリントでも2着に下していたヘリオスエクスプレスに3馬身1/4差をつけるとともに、2走前のGⅡジョッキークラブスプリントで記録したコースレコードを自ら0秒23塗り替えました(1分7秒20)。昨年2月から続く連勝を9に伸ばしたカーインライジングはこれで香港スプリントに続くGⅠ・2勝目です。

●GⅠ香スチュワーズC〜ヴォイッジバブルが連覇

上記GⅠセンテナリースプリントCの2レース後に行われたGⅠ香スチュワーズC(3歳上、芝1600m)は、J. マクドナルド騎手が手綱を取ったヴォイッジバブル(騾6歳、父ディーブフィールド、P. イウ厩舎)が先行抜け出しの競馬で優勝。単勝1.8倍の1番人気に応えました。2馬身差の2着に最後方から追い込んだGⅡシャティントロフィーの勝ち馬ギャラクシーパッチ。勝ったヴォイッジバブルは今年のこのレースでGⅠ初制覇。その後は安田記念(GⅠ)17着を含めて5連敗となっていました。昨年11月のGⅡ香ジョッキークラブマイル(芝1600m)で勝利を取めると、続く前走12月のGⅠ香港マイル(芝1600m)も日本のソウルラッシュに1馬身1/4差をつけて優勝していました。